

# 黒壁

泉鏡花

青空文庫



## 上

席上の各々方<sup>おのおのがた</sup>、今や予が物語すべき順番の来りしまでに、諸君  
 が語給<sup>かたり</sup>いし種々<sup>くさぐさ</sup>の怪談は、いずれも驚魂<sup>きようこん</sup>奪魄<sup>だつぱく</sup>の価値<sup>あたい</sup>なきに  
 あらず。しかれども敢<sup>あえ</sup>て、眼の唯一<sup>ただひとつ</sup>なるもの、首の長さの六尺  
 なるもの、鼻の高さの八寸なるもの等、不具的仮装的の怪物を待  
 たずとも、ここに最も簡單にして、しかも能<sup>よ</sup>く一見<sup>いつけん</sup>直ちに慄<sup>りつぜ</sup>  
 然<sup>ん</sup>たらしむるに足る、いと凄まじき物躰<sup>ぶつたい</sup>あり。他なし、深更<sup>しんこう</sup>  
 人定まりて天に声無き時、道に如何なるか一人の女性に行逢<sup>ゆきあい</sup>  
 たる機会<sup>これ</sup>是なり。知らず、この場合には婦人もまた男子に対して

慄然たるか。恐らくは無かるべし、譬たと之これありとするも、そは唯腕力の微弱なるより、一種の害迫を加えられんかを恐るるに因よのみ。

しかるに男子はこれと異なり、我輩の中に最も腕力無き者といえども、なお比較上婦人より力の優れるを、自ら信ずるにも関かわらず、幽ゆうじやく寂きようの境に於て突然婦人に会えば、一種謂いうべからざる陰惨の鬼気を感じて、勝たえざるものあるは何ぞや。

坐中の貴婦人方には礼を失する罪を免まぬれざれども、予をして忌き憚たんなく謂いわしめば、元來、淑徳、貞操、温良、憐愛、仁じん恕じよ等あらゆる真善美の文字を以て彩さい色しきすべき女性と謂うなる曲線が、その実陰險の忌いまわしき影を有するが故に、夜半宇宙を横領する悪

魔の手に導かれて、自おのから外形あに露あらわるるは、あたかも地中ひそに潜ひそめる磷りん素その、雨に逢あひて出現するがごときものなればなり。

いきどお

憤いきどおることなかれ。恥はずることを止めよ。社会一般の者ことごとく強盗ならんには、誰か一人の罪を責むべき。陰險の気は、けだし婦人の通つう有ゆう性せいにして、なおかつ一種げんの元素そなり。

しかして夜間は婦人がその特性を發揮すべき時節なれば、諸君もまた三さん更こう無ぶ人じんの境人目を憚はばからざる一個の婦人が、我より外ほかに人なしと思いつつある場合に不ゆくり意なく婦人に邈かい近こうせんか、その感覺果はたしていかん。予は不幸にしてその經驗を有せり。

予は去いにし年の冬十二月、加賀国随一の幽ゆう寂じやく界、黒くろ壁かべという処にて、夜半一箇の婦人に出会いし時、実に名状すべからざ

る<sup>すげ</sup>凄氣を感じしなり。黒壁は金沢市の郊外一里程の所にあり、魔境を以て国中に鳴る。けだし野田山の奥、深林幽暗の地たるに因<sup>よ</sup>れり。ここに摩利支天<sup>まりしてん</sup>の威靈を安置す。

信仰の行者を除くの外、昼も人跡罕<sup>まれ</sup>なれば、夜に入りては殆ど<sup>ほとん</sup>近くものもあらざるなり。その物凄<sup>ちかづ</sup>き夜を扱<sup>えら</sup>びて予は故らに黒壁に赴<sup>ふるま</sup>けり。その何のためにせしやを知らず、血氣に任せて行<sup>く</sup>いたりし事どもは、今に到りて自<sup>みず</sup>からその意を了<sup>りよう</sup>するに困<sup>くるし</sup>むなり。昼間黒壁に詣<sup>いた</sup>りしことは両三回なるが故に、地理は暗<sup>そらん</sup>じ得たり。提灯の火影に照らして、闇<sup>くら</sup>き夜道をもともせず、峻<sup>しゅんはん</sup>坂、嶮<sup>けんろ</sup>路を冒<sup>おか</sup>して、目的の地に達せし頃は、午後十一時を過ぎつらん。

摩利支天の祠<sup>もう</sup>に詣<sup>も</sup>ずるに先立ちて、その太<sup>みか</sup>さ三<sup>か</sup>拱<sup>かえ</sup>にも余りぬ

べき一本杉の前を過ぐる時、ふと今の世にも「丑うしの時とき詣まいり」なるものありて、怨ある男を咒のろう嫉妬深き婦人等の、此処こゝに詣きで来て、この杉に釘を打つよし、人に聞きしを懐おも出いでたり。

げに、さることもありぬべしと、提灯を差さ翳しかざして、ぐるりと杉を一周せしに、果せるかな、あたかも弾丸の雨注せし戦場の樹こ立たちの如き、釘を抜取りし傷痕ありて、地上より三四尺、婦人の手の届かんあたりまでは、蜂の巣を見るが如し。唯ただ単だに迷信のみにて、實際成立なりたたざる咒詛のろいにもせよ、かかる罪惡を造る女心の浅ましく、はたまた咒のろわれる男も憐むべしと、見るから不快の念に堪えず直ちに他方に転ぜんとせし視線は、端はし無くも幹はの中央ちゆうに貼はり附つけたる一片の紙に注つげり。

と見れば紙上に文字ありて認められたるもの如し。

予は熟視せり。茂れる木の葉に雨を凌げば、墨の色さえ鮮明に、  
「巳の年、巳の月、巳の日、巳の刻、出生。二十一歳の男子」と  
二十一文字を記せり。

第一の「巳」より「男」まで、字の数二十に一本宛、見るも凄  
まじき五寸釘を打込みて、僅わずかに「子」の一文字を余あませるのみ。

案ずるに三七二十一日の立願りゆうがんの二十日の夜は昨夜に過ぎて  
今夜しもこの呪咀のろいぬし主しが満願の夜にあらざるなきか。予は氷を以  
て五体を撫でまわさるるが如く感せり。「巳の年巳の月巳の日巳  
の刻生」と口中に復誦するに及びて、村沢浅次郎の名は忽たちまち脳裡  
に浮びぬ。



実に浅次郎は当年二十一歳にして巳の年月揃いたる生なり。或  
 は午に、或は牛に、此般こんはんの者も多かるべし。しかれども予が嘗かつ  
 て聞き知れる渠かれが干支かんしの爾しかく巳を重ねたるを奇異とせる記憶は、咄と  
 嗟つさに浅次郎の名を呼よび起おこせり。しかも浅次郎はその身より十ばか  
 りも年とし嵩かさなる艶婦ちぎりに契ちぎりを籠こめしが、ほど経て余りにその妬深ねたみき  
 が厭いとわしく、否寧むしろその非常なる執心の恐ろしさに、おぞ毛けを  
 振ふるいて、当時予が家に潜めるをや。「正に渠なり」と予は断定し  
 つ。文化、文政、天保間の伝奇小説に応用されたる、丑の時詣な  
 んど謂えるものの實際功を奏すべしとは、決して予の信ぜざると  
 ころなるも、この惨怛さんたんたる光景は浅次郎の身に取りて、喜ぶべ  
 きことにはあらずと思いき。

浅次郎は美少年なりき。婦人に対しては才子なりき。富豪の家の次男にて艶冶無腸えんやむちようの若旦那なりき。

予は渠を憎まず、却りてその優柔なるを憐みぬ。

されば渠が巨多きよたの金銭を浪費して、父兄に義絶せられし後、今の情婦某年なにがとし紀三十、名を艶つやと謂うなる、豪商の寡婦に思われて、その家に入浸りいりひた、不義の快樂を貪りしが、一月こそ可ひとつきけれ、二月こそ可よけれ、三月四月に及びては、精神もうとう 騰として常に酔よえるが如く、身軀からだも太く衰弱いたしつ、元氣次第に消耗せり。

こは火の如き婦人の熱情のために心身ふたつ両ながら溶解し去らるるならんと、ようやく渠を恐るる気色を、早く暁さとりたる大年増は、我子ともすべき美少年の、緑陰りよくいん 深き所を厭いといて、他に寒紅梅

一枝の春をや探るならんと邪推なし、瞋恚を燃す胸の炎は一段の熱を加えて、鉄火五躰を烘るにぞ、美少年は最早数分時も得堪えずなりて、辛くもその家を遁走したりけるが家に帰らんも勘当の身なり、且は婦人に搜出だされんことを慮りて、遂に予を便りしなり。予は快く匿いつ。

しかるに美少年はなお心を安んぜずして言いぬ。

「彼の婦人は一種の魔法づかいともいうべき者なり。いつぞや召使の婢が金子を掠めて出奔せしに、お艶は争で遁すべきとて、直ちに足留の法といえるを修したりき、それかあらぬか件の婢は、脱走せし翌日より遽に足の疾起りて、一寸の歩行もなり難く、間近の家に潜みけるを直ちに引戻せしことを目撃したりき。その

他呪詛、禁厭等、苟も幽冥の力を仮りて為すべきを知らざるはなし。

さるからに口説の際も常に予を戒めて、ここな性悪者め、他し女子に見替えて酷くも我を棄つることあらば呪殺してくれんと、凄まじかりし顔色は今もなお眼に在り。」

と繰返しては歎息しつ。予は万々然ることのあるべからざる理をもて説諭すれども、渠は常に戦々兢々として樂まざりしを、密かに持余せしが、今眼前一本杉の五寸釘を見るに及びて予は思半ばに過ぎたり。

上の二

有恁かくて予は憐むべき美少年の為に、咒詛のろいの釘を拔棄ぬきすてなんと試みに、執念しゅうねき鉄槌の一打は到底指の力の及ぶ所にあらざりき。  
まこと洵に八才の龍女がその功力を以て成仏せしというなる、法華經の何の卷かを、誦ずんじては抜き、誦じては抜くにあらざれば、得て抜くべからざるものをや。

誰にもあれ人無き処にて、他に見せまじき所業を為せばその事の善悪に関わらず、自から良心の咎むるものなり。

予も何となく後うしろぐら顧あやぶき心地して、人もや見んと危あやぶみつつ今一息と踏張ふんばる機会に、提灯の火を揺消ゆりけしたり。黒こくびやく白も分かぬ闇夜となりぬ。予は茫然として自失したりき。時に遠く一点の火光あかり

を認めつ。

良有りて予はその燈影なるを確めたり。聽て視線の及ぶべき距離に近きぬ。

予が曩に諸君に向いて、凄まじきものの經驗を有せりと謂いは是なり。

予は謂えらく、偶然人の秘密を見るは可し。然れども秘密を行う者をして、人目を憚る行を、見られたりと心着かしめんは妙ならず。ために由無き怨を負いて、迷惑することもありぬべしと、四辺を見廻わして、身を隠すべき所を覓めしに、この辺には屢見る、山腹を横に穿ちたる洞穴を見出したり。

要こそあれと身を翻して、早くも洞中に潜むと与に、燈の主は

間近に來りぬ。一個の婦人なり。予は燈影を見し始<sup>はじめ</sup>より、今夜<sup>こよい</sup>満願に當るべき咒詛主の、驚破<sup>すわ</sup>や來ると思ひしなりき。

霜威<sup>そうい</sup>の凜冽<sup>りんれつ</sup>たる冬の夜に、見る目も寒く水を浴びしと覺<sup>おぼ</sup>しくて、真白の単衣<sup>ひとえ</sup>は濡紙を貼りたる如く、よれよれに手足に絡<sup>まと</sup>いて、全身の肉附は顕然<sup>あらわ</sup>に透きて見えぬ。霑<sup>うるお</sup>いたる緑の黒髪は颯<sup>さつ</sup>と乱れて、背と胸とに振分けたり。想うに、谷間を流るる一<sup>ひとすじ</sup>条の小川は、此処に詣<sup>よ</sup>ずる行者輩の身を淨<sup>きよ</sup>むる処なれば、婦人も彼<sup>あそこ</sup>処にこそ垢離<sup>こり</sup>を取れりしならめ。

と見る間に婦人は一本杉の下に立寄りたり。

ここに於て予がその婦人を目して誰なりとせしかは、予が言を待たずして、諸君は疾<sup>とつ</sup>に推し給わむ。

予は洞中に声を呑みて、その為せんようを窺うかがいたり。渠は然りとも知らざれば、金燈籠に類したる手提の燈火を傍に差置き、足を爪立てて天を仰ぎ、腰を屈かがめて地に伏し、合掌しつ、礼拝しつ、頭を木の幹に打当つるなど、今や天地は己が独有に皈かえせる時なるを信じて、他に我を見る一双の眼あるを知らざる者にあらざるよりは、到底裏うらはれ恥はずかしく、為しがたかるべき、奇異なる挙ふるまい動まいを恣ほしいままにしたりとせよ。

最後に婦人は口中より一本の釘を吐はき出して、これを彼二十一歳の男子と記したる紙片に推当おしあて、鉄槌てつちをもて丁ちよう々ちようと打ちたりけり。

時に万籟ばんらい寂せきとして、地に虫の這う音も無く、天は今にも降ふらせ



んずる、<sup>みぞれ</sup>霰か、<sup>あられ</sup>雪か、<sup>たもと</sup>霰か、<sup>たもと</sup>雨かを、<sup>たもと</sup>雲の袂に蔵しつつ微音をだに語らざる、その静<sup>しずか</sup>さに睡りたりし耳元に、「カチン」と響く鉄槌の音は、鼓膜を劈<sup>つんざ</sup>きて予が腸を貫けり。

続きで打込む丁々は、<sup>たらたら</sup>滴々冷かなる汗を誘いて、予は自から支えかぬるまでに戦慄せり。

剩<sup>あまつさ</sup>え陰々として、<sup>もすそ</sup>裳は暗く、腰より上の白き婦人が、<sup>たけ</sup>長なる髪を<sup>ふりみだ</sup>振り乱<sup>たたず</sup>して<sup>たたく</sup>たたく、その姿の凄じさに、予は寧ろ幽霊の<sup>くみしや</sup>与易<sup>す</sup>さを感じてき。

釘打つ音の終ると<sup>ひとし</sup>侘く、婦人はよろよろと身を退<sup>すき</sup>りて、束ねしものの崩るる如く、地上に<sup>どう</sup>と膝を敷きぬ。

予をして<sup>あやま</sup>謬たざらしめば、首尾好く願<sup>がん</sup>の満ちたるより、二十日

以来張詰めし氣の一時に弛みたるにやあらん。良ありて渠の身を  
起し、旧來し方に皈るを見るに、その來りし時に似もやらで、太  
く足許のきたりき。

# 青空文庫情報

底本：「文豪怪談傑作選 泉鏡花集 黒壁」ちくま文庫、筑摩書房

2006（平成18）年10月10日第1刷発行

底本の親本：「鏡花全集 別巻」岩波書店

1976（昭和51）年3月26日第1刷発行

初出：「詞海 第3輯第9巻、第10巻」

1894（明治27）年10月、12月

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2015年5月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 黒壁 泉鏡花

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>